

## 埼玉県所沢市における企画展『関東大震災百年』の報告

徳田光希\* (栄東中学校) ・ 篠田海遥 (大分大学) ・ 荒井賢一 (栄東高等学校)

### § 1. はじめに

著者らの所属する栄東中学・高等学校の理科研究部では、2013年より、埼玉県内に残る1923(大正十二)年関東地震の記録の調査・分析を継続している。その過程で、所沢市を対象地域とした研究において、震災に関する石碑や震災の当日(1923年9月1日)に記された日記を調査した(荒井・篠田(2021))。同年9月2日以降の日記の読み取りを進め、震災からの復旧や復興の過程についても調べている。

関東地震の発生から100年を迎えるにあたり、埼玉県所沢市文化財保護課の主催により、企画展『関東大震災百年』が開催される運びとなった。所沢市を対象地域として研究を進めている縁から、お声がけ下さり、本企画展において発表をさせて頂く機会を頂いた。本稿では、企画展の詳細と発表させて頂いている内容について紹介をする。

### § 2. 企画展『関東大震災百年』の詳細

本企画展は、2023(令和五)年8月15日(火)～同年9月24日(日)に、所沢市生涯学習推進センターにて開催されている。1923年9月1日に発生した関東大震災により、当時の所沢市に何が起こったのか(地震による揺れや被害の状況)、それに対して人々はどう動いたか(復旧や復興の過程)について、パネルや大型の地図等を用いて展示をおこなっている。所沢市民の中から募られた市民学芸員(図1)が、「地図」・「聞き取り」・「世相」・「行政」の班に分かれ、企画展の準備、来場される方々への展示の説明をされている。来場される方々と、この地震に関して情報を共有することで、今後の防災につながることを期待される。



図1. 所沢市生涯学習推進センターでの市民学芸員の皆様との打ち合わせ

### § 3. 企画展における著者らの発表

本企画展では、荒井・篠田(2021)及び徳田・荒井(2023)に基づき、所沢市に残る1923年関東地震の石碑や日記の記録について、ご来場頂く方々に向けてパネルで紹介をしている。日記については、一部を展示している。また、2013年より研究対象地域として調査を進めてきたさいたま市や県内の三大被災地(旧粕壁町・旧幸手町・旧川口町)を含む春日部市・幸手市・川口市、県の北西部地域についても、パネルと展示により紹介している。

前述の埼玉県南東部に残る記録には、1923年9月1日に発生した関東地震の本震による揺れや建物の倒壊等の被害、その当日から数日後に発生した余震による揺れ、震災からの復旧について記されている。これらの地域では、本震による震度が現在の気象庁震度階級で6弱～7であった場所が多くあったと推定されている(武村・諸井(2002))。

一方、所沢市では、本震による震度が上記の階級で震度5弱程度であった。寺社の建物や土蔵の壁、石灯籠の被害の記録が残されている。更に、1924(大正十三)年1月15日に発生した規模の比較的大きな余震とされる丹沢地震について、石碑と日記、及び同年1月15日に発行された新聞の号外に記されている。この地震のことは、埼玉県南東部地域の調査をおこなった各記録には記されていない。丹沢地震について、所沢市に残る複数の種類の記録にのみ残されているのは、この地震の震源が所沢市から比較的近かったために揺れが大きかったことが考えられる。また、本震による被害が比較的小さく、本震から4ヶ月半が経ち復旧がかなり進んだところで、丹沢地震により再び本震と同程度かそれを上回る揺れに見舞われたことから、各種の記録に残ったと考えられる。

### § 4. 「関連講座」の実施

本企画展の会期中の2023年9月16日には、同会場において「関連講座」が開催される。ここでは、所沢市をはじめ埼玉県内の記録の調査結果や分析について、スライドを用いて口頭で紹介させて頂く。また、パネルディスカッション形式で、質疑応答や議論の時間を設けて頂き、本講座に参加をされる方々と関東地震に関する情報を共有する。

所沢市を対象とした研究や本企画展での発表にあたり、木村立彦氏・下田真奈美氏をはじめ所沢市生涯学習推進センターの皆様にご指導を頂いた。